

# フライアッシュコンクリート活用

## 県が土木工事で標準化へ

16年度以降

現場施工事例と留意点、北陸電力火力部の塚本明課長が敦賀火力発電所産出の分級F Aの特性について話し、各氏検証データを基に、AS Rや塩害で一層厳しい環境下の北陸地方でこそフライアッシュの有効性は大きいなど可能性を指摘。

降は公共土木工事におけるF Aコンクリートを標準化するとした。そのため今年度内に県生コン工組や各生コン協組、各生コンプラント、セメントメーカー等と意見交換し早期の具体化を急ぐ方針。なお今セミナーはF A有効利用促進検討委員会、県建設技術公社が共催。金沢工業大学、地域防災環境科学研究会、北陸道路研究会が後援した。

福井県主催の第2回「福井地区フライアッシュコンクリート活用セミナー」は8日、アオッサの

福井県主催の第2回 県民ホールで開催され、ゼネコンや建設コンサル、資材メーカーの関係者ら計約150人が参加し、F Aコン

クリートが構造物の長寿命化に優れる点を、地域循環型社会の形成に絡めて学んだ。まず開会挨拶で、金沢大学の鳥居和之教授が産官学一体のF A有効利用促進検討委員会委員を務める経歴を踏まえ「コンクリート

すいひび割れと劣化について、金沢工業大学の宮里心一教授がF Aの混和効果とその機構、前田建設工業北陸支店の山田倫氏がF Aコンクリートの

構造物の長寿命化や環境負荷の低減を図る観点、さらには敦賀石炭火力発電所で発生するF A使用で地産地消にも貢献する」などその優位性を強調。続いて福井県コンクリート診断士の石川裕

夏会長（福井県建設技術公社）がコンクリート構造物に生じや



約150人が聴講した第2回活用セミナー＝8日



鳥居 和之氏

夏会長（福井県建設技術公社）がコンクリート構造物に生じや